

1. 服飾デザインⅠ：小川 レティシア
2. デザイン画Ⅰ：松本 和子
3. パターンメイキングⅠ：小堀 雅恵
4. ソーイングⅠ：小堀 雅恵
5. 素材Ⅰ：小笠原 宏
6. カラーⅠ：杉本 祐子
7. パソコンワークⅠ：加藤 正人
8. ファッション論：上間 常正
9. ファッションビジネス論：玉村 雅美

科目名	服飾デザイン I	教員名	小川 レティシア
授業時数・単位	90 時間 3 単位	対象クラス	FC 科 1 年
授業テーマ・概要	<p>最新ファッショントレンドの分析・解説、コレクションの作成方法を習得する。</p> <p>そのための基礎教育としてカプセルコレクションの作成を通じて以下の内容を学ぶ。</p> <p>コンセプトの定義、コレクションマップの作成、テーマの調査、インスピレーションの源の探し方、ムードボードの作成方法、生地や色の選択の調査、描画の基本、スケッチ・シルエット・製品図作成、着色技術、ディテールの描画、素材のテクスチャー表現（描画手法は「デザイン画 I」で習得）</p> <p>ブランドのコア概念を分析し、そのコア概念に基づいたベーシックなデザインを考案する。</p> <p>コーポレートアイデンティティを理解する。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ファッション界で働くために必要かつ不可欠な資質を向上させること。</li> <li style="padding-left: 20px;">資質とは：創造性、好奇心、芸術的センス、反応性、柔軟性、モチベーション、マニュアルスキル、技術スキル、積極性、繊細さ、厳格さ、情熱、観察力、分析力、礼儀正しさ</li> <li>・人体のプロポーションの知識を習得すること。</li> <li>・ファッションシルエットを理解し、描画したシルエットに基づくデザインを考案できるようになること。</li> <li>・カプセルコレクションのプロセスを理解すること。</li> <li>・モードの4つの基本(カラー／素材／フォルム／アイテム)を習得すること。</li> </ul>		
授業の方法	<p>学習は授業の中での演習、自宅での演習とパーソナルリサーチによって進めます。</p> <p>学生自身のコレクションファイルやカプセルコレクションの作成、ファッションコンテストへの参加、ファッションショーのテーマ・コンセプトのリサーチ、テーマ・コンセプトに基づくデザインの考案など</p> <p>新しいトレンド、クリエイターやマテリアルの発見を促すため、展覧会、ショップ、生地店等を視察します。</p> <p>パターン、ソーイングの授業と連携し、この授業でデザインした作品の一部を実際に制作します。</p>		
成績評価の方法	<p>授業での演習、自宅での課題演習、パーソナルファイル 50%、テスト 10%、ファッションコンテストの採点 10%、ファッションショーの採点 10%、授業態度 10%、出席率 10%、継続的なレベルの向上 加点+0～10%</p> <p>描画レベルが平均以下だった場合でも、継続的な向上が認められる場合は加点対象</p> <p>※成績評価基準は、校内ルール4項(2)に準拠する。</p>		
特記事項			

回数	授業テーマ	授業内容
1回	イントロダクション	シルエット/コラージュ/コレクションマップ作成方法・トレンド説明
2回	デニムのファイル	繊維操作・加工
3回	デニムのファイル	スカート・トップス・ワンピースのヴァリエーション
4回	デニムのファイル	デザイン・カラー・イメージ
5回	素材のファイル	素材の書き方
6回	素材のファイル	デザイン
7回	素材のファイル	デザイン
8回	ファッションコンテスト	イメージ・テーマ・デザイン
9回	ファッションコンテスト	デザイン・塗り絵
10回	ファッションショーのコラージュ	トレンド
11回	生地の見察	生地店の視察、レポート
12回	復習とテスト	これまでの復習 テスト
13回	ファッションショー作品	デザイン・生地サンプルのチェック
14回	ファッションショー作品	デザイン・生地サンプルのチェック
15回	ファッションショー作品	実際の生地選び
16回	ファッションショー作品	ファイナルチェック
17回	ベーシックアイテムのファイル	ベーシックアイテムの練習
18回	ベーシックアイテムのファイル	イメージ・テーマ・カラー・生地
19回	ベーシックアイテムのファイル	デザイン
20回	ベーシックアイテムのファイル	デザイン
21回	ベーシックアイテムのファイル	デザイン
22回	ヴァリエーションアイテムのファイル	ヴァリエーションアイテムの練習
23回	ヴァリエーションアイテムのファイル	イメージ・テーマ・デザイン
24回	ヴァリエーションアイテムのファイル	デザイン
25回	ヴァリエーションアイテムのファイル	デザイン
26回	ヴァリエーションアイテムのファイル	デザイン
27回	復習とテスト	これまでの復習 テスト
28回	ファッションショーアクセサリー	アクセサリーと作品(洋服)を合わせるデザイン
29回	ファッションショーアクセサリー	制作・加工
30回	ファッションショーアクセサリー	制作・加工

科目名	デザイン画 I	教員名	松本 和子
授業時数・単位	90 時間 3 単位	対象クラス	FC 科 1 年
授業テーマ・概要	<p>ファッション業界(デザイナー、パタンナー、企画等)へ就職するための学習の一つとして位置づける。</p> <p>服のイメージを伝えるため、誰が見ても良く解るデザイン画の習得を目指す。</p> <p>服のデザインに必要な基本、形、色、素材および人体の構造、プロポーション、ポーズの他、基本アイテムの平画(製品図)がきちんと描けるようになることを重視する。</p> <p>実物をよく観察し、多くの物を描く習慣をつける。(正確に捉える) (速く描く)</p> <p>就活意識を高めるための、幅広い学習をする。(授業外の時間の活用)</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ファッションデザイン画技法の基本を習得し、服のイメージを正確に伝達できるようになること。</li> <li>・デザイン画とパターンとの関連性を的確に表現できるようになること。</li> <li>・習得した技法を、他の授業等で活用すること。</li> </ul>		
授業の方法	<p>学生の性格、個性、能力を理解したうえで、一人一人が持っている良い部分を伸ばしていく。</p> <p>また、努力することで、学生自らが成長する楽しさを感じ取れる授業を目指す。</p> <p>実習での繰り返しの練習を重視し、着装表現と平画(製品図)表現の基礎を充実させる。</p> <p>上記を学ぶことにより、次のステップである、服のイメージを自在に絵で表現できるようになるための土台が身につくよう指導する。</p>		
成績評価の方法	<p>★ 課題の出来映え(含む、提出期限) 60%      ★ デザイン性 20%</p> <p>★ パターンとの関連性 20%</p> <p>★ 授業、課題に対する積極性 授業態度(マナー) 加点+0~20%</p> <p>★ 出席率 加点+0~10%</p> <p>※成績評価基準は、校内ルール4項(2)に準拠する。</p>		
特記事項	<p>デザイナー志望者は、自宅学習でクロッキーを含め多くのデザイン画を描くこと。</p> <p>その際、単なるお絵かきにならないように、服の観察を大切に！</p>		

回数	授業テーマ	授業内容
1回	オリエンテーション	D画を学ぶ目的、画材の説明、D画の基本練習
2回	プロポーション	D画の基本バランス、ポーズ、動きについて
3回	シルエット	基本シルエット(タイト、ストレート、トラペーズ)等
4回	人体部分練習	頭部、顔、手、腕、脚
5回	画材の扱い、素材表現	画材の特徴を理解し、素材表現に活用する
6回	着装表現、製品図 1 (前・後)	スカート
7回	(含 素材表現)	パンツ
8回	↓	シャツ
9回	↓	ブラウス
10回	↓	↓
11回	ディテール表現	襟、袖、ギャザー、プリーツ、ポケット等
12回	コンテスト作品	アイデアスケッチ、ラフスケッチ
13回	↓	彩色を中心に
14回	↓	まとめ、仕上げ
15回	メンズの表現	メンズのプロポーション、骨格、ポーズ
16回	着装表現、製品図 2 (前・後)	ジャケット
17回	(含 素材表現)	ワンピース
18回	↓	コート
19回	↓	↓
20回	↓	↓
21回	ファッショングッズの表現	帽子、バッグ
22回	↓	靴、ベルト
23回	写真を見て描く (製品図)	ブランドの特徴を表現する
24回	↓	↓
25回	↓	↓
26回	デフォルメ	墨、割りばし等を使い、省略法にチャレンジ
27回	授業で制作した作品を描く	着装画とそのバリエーション(3~4体)を表現
28回	(含 作品のバリエーション)	(製品図) (使用した素材を画材で表現)
29回	↓	↓
30回	↓	↓

科目名	パターンメイキング I	教員名	小堀 雅恵
授業時数・単位	270 時間 9 単位	対象クラス	FC 科 1 年
授業テーマ・概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パターンメーカーとして大切な基本理論と基本技術の体得を目指す。</li> <li>・人体の体型を把握し、JIS規格による婦人服サイズを理解する。</li> <li>・基本アイテムのパターン作りが出来るようにする。</li> <li>・海外、国内のコレクション情報や、メディア、ファッション雑誌から流行を把握し、業界用語や服飾用語を学習する。</li> <li>・店頭やストリートファッションを市場調査し、リアルクローズを追及する。</li> <li>・調査結果をオリジナルデザイン作品に活かしシルエットやディテールに取り入れる。</li> <li>・ソーイングとの連動により、服の構造、服作りの工程を理解したパターンを作成する。</li> </ul>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・標準体型を理解すること。</li> <li>・原型を利用した基本アイテムの工業パターン、縫製仕様書を作成できるようになること。</li> <li>・デザイン画からバリエーション作図が出来るようになること。</li> <li>・縫製工程を理解し合理的なパターン作りを目指す。</li> </ul>		
授業の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本アイテムのパターン作成(原型～工業パターン作成指導) アイテム：スカート、シャツ、ワンピース、パンツ、裏無しジャケット</li> <li>・トワルを作成し、トワルチェックを通じて、平面から立体への理解を深める。</li> <li>・仕様書の作成、縫製図解の指導。</li> <li>・流行を取り入れたオリジナルデザインのパターン指導(バリエーション作図)</li> </ul>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>①工業パターン(仕様書込み)の正確さ、理解度(含む 提出期限) 50%</li> <li>②トワルの完成度の高さ 30% ③レポート 20%</li> <li>◎授業、課題に対する積極性・授業態度(マナー) 加点+0～10%</li> <li>◎出席率 加点+0～15%</li> <li>※成績評価基準は、校内ルール4項(2)に準拠する。</li> </ul>		
特記事項			

回数	授業テーマ	授業内容
1回	基礎知識	パターン用語・用具、ボディ、原型説明
2回	基礎実技	線の引き方、定規の使い方、トレースの仕方
3回	スカート	タイトスカート ファーストパターン作成
4回	↓	トワルについて トワル組み トワルチェック
5回	↓	工業パターン作成
6回	↓	仕様書の書き方
7回	ダーツ移動・分散	成人女性体型について 採寸実技
8回	↓	縮尺実技 1/4縮尺でのダーツ移動・分散練習
9回	↓	実寸作図 トワル組み（両身・ミシン縫い）
10回	シャツブラウス	ストレート原型作図 身頃作図
11回	↓	衿・袖作図
12回	↓	トワル組み（半身・ピン打ち）
13回	↓	トワルチェック
14回	↓	工業パターン作成・仕様書作成
15回	バリエーション作図Ⅰ スカート	1/4縮尺で作図練習
16回	↓	↓
17回	オリジナルデザイン作品Ⅰ	スカート作図
18回	↓	トワル組み トワルチェック
19回	↓	工業パターン作成
20回	バリエーション作図Ⅱ 衿・袖	実寸・1/2縮尺で作図練習
21回	↓	↓
22回	オリジナルデザイン作品Ⅱ	シャツブラウス作図
23回	↓	トワル組み トワルチェック
24回	↓	工業パターン作成
25回	ワンピース	プリンセス原型作図
26回	↓	身頃作図
27回	↓	工業パターン作成
28回	パンツ	パンツ原型作図
29回	↓	デザインパンツ作図
30回	↓	工業パターン作成
31回	ジャケット	ジャケット原型作図
32回	↓	原型～身頃作図
33回	↓	衿作図 トワル組み（半身 ピン打ち）

34回	↓	袖作図
35回	↓	トワル組み
36回	↓	トワルチェック 工業パターン作成
37回	↓	仕様書作成
38回	オリジナルデザイン作品Ⅲ	ワンピース作図
39回	↓	トワル組み(両身 ミシン縫い)
40回	↓	トワルチェック
41回	↓	工業パターン作成
42回	↓	仕様書作成・工程分析組み立て
43回	オリジナル修了作品	ファーストパターン作図
44回	↓	↓
45回	↓	↓
46回	↓	トワル組み トワルチェック
47回	↓	↓
48回	↓	↓
49回	↓	↓
50回	↓	工業パターン作成
51回	↓	工程分析作成
52回	↓	裁断・芯貼り・縫製
53回	↓	縫製
54回	↓	↓
55回	↓	↓
56回	↓	↓
57回	↓	↓
58回	↓	↓
59回	↓	↓
60回	総まとめ	修了作品修正 ミシン点検・整備



科目名	ソーイング I	教員名	小堀 雅恵
授業時数・単位	225 時間 7.5 単位	対象クラス	FC 科 1 年
授業テーマ・概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本アイテムの服の構造・服作りの工程を学習する。</li> <li>・既製服の生産現場に近い知識と技術を体得し、効率の良い作業から達成感と自信を身に付け、伝える力とチームワークを養う。</li> <li>・自宅学習を身に付け繰り返し行うことで技術の体得と向上を図る。</li> <li>・オリジナルデザイン製作後は検討会を実施し、プレゼンテーション能力を身に付け、就職活動に繋がるようにする。</li> <li>・目標や納期を守るため時間管理の徹底に努める。</li> </ul>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パターンとの連動アイテムの縫製及び、部分縫いを学習し、双方の理解を深めること。</li> <li>・工程分析を理解することで、各自で考え、縫い進めていくことが出来るようになること。</li> <li>・基本アイテムの縫製工程、部分縫いでの練習を踏まえて、完成度の高いオリジナルデザインのアイテムを作ることが出来るようになること。</li> </ul>		
授業の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1つ1つの縫製工程を確実なものにしていくために、基本となるアイテムは全員同デザインで師範を参考に縫い進めていく。</li> <li>・コミュニケーション能力を向上させるため、互いに情報の共有、助け合う心を育てる。</li> <li>・各工程の作業を丁寧に行うようにし、完成度の高い服作りを目指す。</li> </ul>		
成績評価の方法	<p>①基本アイテムの縫製品質(含む 提出期限) 40% ②部分縫いの理解度・品質・納期 20%</p> <p>③オリジナルデザインアイテムでのアレンジ力・理解度・品質・納期 30% ④工程分析の組み立て 10%</p> <p>◎授業、課題に対する積極性・授業態度(マナー) 加点+0~10%</p> <p>◎出席率 加点+0~15%</p> <p>※成績評価基準は、校内ルール4項(2)に準拠する。</p>		
特記事項			

回数	授業テーマ	授業内容
1回	基礎知識	道具、資材の説明 シーチングの取り扱い(地直し・トレース)
2回	基礎縫い	ミシンの取り扱い説明 基礎縫い
3回	巾着・トートバッグ	裁断時の基本知識
4回	↓	工程分析について
5回	↓	縫製
6回	↓	↓
7回	↓	完成・提出・検品
8回	スカート	パターン返却・修正 パターンカット 接着芯について
9回	↓	裁断～しるし付け 工程分析組み立て
10回	↓	縫製
11回	↓	↓
12回	↓	完成・提出・検品
13回	部分縫いⅠ	裏地付きフラットニットファスナーの縫い方 裏地について
14回	↓	縫製
15回	部分縫いⅡ	コンシールファスナーの縫い方(裏無し・裏付き)
16回	↓	縫製
17回	↓	完成・提出・検品
18回	シャツブラウス	パターン返却・修正 パターンカット
19回	↓	裁断 芯貼り
20回	↓	縫製
21回	↓	↓
22回	↓	↓
23回	↓	↓
24回	↓	完成・提出・検品
25回	オリジナルデザイン作品Ⅰ	スカートパターン返却・修正 工程分析組み立て
26回	↓	縫製
27回	↓	↓
28回	↓	↓
29回	↓	完成・提出・プレゼンテーション・検品
30回	オリジナルデザイン作品Ⅱ	シャツブラウスパターン返却・修正 工程分析組み立て
31回	↓	縫製
32回	↓	↓
33回	↓	↓

34回	↓	完成・提出・プレゼンテーション・検品
35回	ワンピース	パターン返却・修正 パターンカット
36回	↓	縫製
37回	↓	↓
38回	↓	↓
39回	↓	↓
40回	↓	完成・提出・検品
41回	部分縫いⅢ・Ⅳ	切りポケット2種 裁断 芯貼り
42回	↓	縫製
43回	↓	↓
44回	↓	完成・提出・検品
45回	パンツ	パターン返却・修正 パターンカット
46回	↓	縫製
47回	↓	↓
48回	↓	↓
49回	↓	完成・提出・検品
50回	ジャケット	パターン返却・修正 パターンカット
51回	↓	裁断～しるし付け 工程分析組み立て
52回	↓	縫製
53回	↓	↓
54回	↓	↓
55回	↓	↓
56回	↓	↓
57回	↓	↓
58回	↓	↓
59回	↓	完成・提出・検品
60回	オリジナルデザイン作品Ⅲ	ワンピースパターン返却・修正 工程分析組み立て
61回	↓	縫製
62回	↓	↓
63回	↓	↓
64回	↓	完成・提出・プレゼンテーション・検品
65回	オリジナル修了作品	縫製
66回	↓	↓
67回	↓	↓

68回	↓	↓
69回	↓	↓
70回	↓	↓
71回	↓	↓
72回	↓	↓
73回	↓	↓
74回	↓	↓
75回	↓	完成

科目名	素材 I	教員名	小笠原 宏
授業時数・単位	45 時間 1.5 単位	対象クラス	FC 科 1 年
授業テーマ・概要	<p>・ファッション素材として基本的な繊維・糸、織物・編み物など、服地の特性や、それぞれの効果・用途を学習する。</p> <p>・アパレルで使用頻度の高い服地(綿・麻・毛織物・絹・化合織・複合素材・ジャージーなど)基本服地100種ほどを学ぶ。</p> <p>・服地の良否の見分け方やデザインにマッチした服地素材のセレクトの仕方を学ぶ。</p> <p>・近年開発されている新素材の特性・用途と、今後のテキスタイルの方向性について学ぶ。</p>		
到達目標	<p>・基本素材の特性・用途を確実に理解すること。</p> <p>・素材ごとの欠点・注意点や、加工の仕方によるその素材のメリット・デメリットを理解すること。</p> <p>・新素材の動向を知ること。</p>		
授業の方法	<p>基本的な素材の特性を理解できるように、繰り返し講義を行う。</p> <p>さらに、服地のサンプルを多く取り入れ、実際に触って、服のデザインにマッチした素材のあり方を理解できるように訓練する。</p> <p>基本的な織物の組織を理解するとともに、デザイン力を高める訓練として、柄作成の実習を行う。</p>		
成績評価の方法	<p>・素材のテスト 50%</p> <p>・実習での課題評価 50% (デザイン性 加点+0~10%)</p> <p>・出欠席 ±0~15%</p> <p>・授業参加意欲 +0~10%</p> <p>※成績評価基準は、校内ルール4項(2)に準拠する。</p>		
特記事項			

回数	授業テーマ	授業内容
1回	テキスタイルガイダンス	素材(テキスタイル)とは 原料から製品になるまで
2回	繊維について	繊維の分類 (A天然繊維・B化学繊維)
3回	A天然繊維 植物繊維(綿)	綿素材の品質 繊維の形状と特性
4回	'' (麻)	麻の種類と品質 繊維の形状と特性
5回	A天然繊維 動物繊維(絹)	絹素材の品質 繊維の形状と特性
6回	'' (羊毛)	羊毛素材の品質 繊維の形状と特性
7回	'' (獣毛)	主な獣毛素材(カシミア、キャメル、アルパカ、モヘア他)の特性
8回	B化学繊維 再生繊維	再生繊維(レーヨン、キュプラ、テンセル他)の種類と主な特性
9回	'' 半合成繊維	半合成繊維(アセテート、トリアセテート他)の種類と主な特性
10回	'' 合成繊維・複合素材	化合繊と複合素材の主な特性 近年の新素材
11回	糸について A天然繊維糸	綿・麻・絹・羊毛の糸の特性
12回	'' B化学繊維糸	化学繊維糸の特性 意匠撚糸の種類と特性
13回	織物について	三原組織 組織別の主な特性
14回	編物(ニット)について	編物の特性 「編」と「織」の違い
15回	緯編と経編	編物の組織 編物の形状からの特性と欠点・注意点

科目名	カラー I	教員名	杉本 祐子
授業時数・単位	45 時間 1.5 単位	対象クラス	FC 科 1 年
授業テーマ・概要	<p>ファッション業界へ就職するために、色彩は全ての職種に共通して重要であり、1年次では基本的な内容について習得する。現場で必須の色彩の知識を学び、活用・応用できるようにするために、演習を重ねて理解を深める。また、ファッション色彩能力検定にも関連付けた内容とする。</p> <p>概要：①色彩の基本 ②配色の基本 ③色彩心理 ④ファッションイメージと色彩 ⑤ファッションカラーコーディネーションの配色技法 ⑥パーソナルカラーの仕組み ⑦ファッション色彩能力検定対策</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・色彩は単独で存在するものではなく、使用する場面や配色による効果が大きく作用するので、基本的な配色の技法を習得すること。</li> <li>・伝えたいイメージを的確に表現できるように各自の能力や感性を磨くこと。</li> <li>・ファッション色彩能力検定3級あるいは2級取得を目指す。</li> </ul>		
授業の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストとプリント(オリジナル)を活用して基礎知識を習得する。</li> <li>・講義後は必ず演習及び応用編として関連付けた課題を作成し、個性を表現しながら理解を深める。</li> <li>・多くの演習や課題に取り組み、各自の気づき、発見で楽しみながら色彩の知識を習得できるようにする。</li> <li>・ファッション色彩能力検定対策として3級問題集も使用する。</li> </ul>		
成績評価の方法	<p>◎課題(提出期限も含む)：課題6(作品数6) 演習5 ○完成度 40% ○創造性 20%</p> <p>◎期末テスト 40%</p> <p>◎授業、課題に対する積極性・授業態度 加点 +0~10%</p> <p>◎出席率 加点 +0~15%</p> <p>※成績評価基準は、校内ルール4項(2)に準拠する。</p>		
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美術展鑑賞や新しいトレンドの動向など積極的にチェックし、感性を磨く努力をしてください。</li> </ul>		

回数	授業テーマ	授業内容
1回	色彩の基本	マンセルカラーシステム、色の三属性、カラーチャート作成
2回	色相と色相環の理解	色相の分類を理解するためのオリジナル色相環の作成
3回	色彩の技術 : 配色の基本 ①	色相を基準にした配色の5種類
4回	〃 : 配色の基本 ②	トーンを基準にした配色の3種類と色彩理論(混色、視覚と色)
5回	〃 : 配色の基本 ③	色彩構成のテクニック、グラデーション、セパレーション他
6回	色彩心理	色の性質、役割、対比効果、色彩の感情効果、錯視
7回	前期の復習、テスト	前期の復習、テスト
8回	ファッションカラーコーディネーションの技法①	カマイユ配色、フォ・カマイユ配色、トーン・オン・トーン配色
9回	〃 ②	トーン・イン・トーン配色、トータル配色、ドミナントカラー配色
10回	〃 ③	トリコロール配色、マルチカラー配色、アクセントカラー配色
11回	ファッション産業と色彩	企画段階の色彩、生産段階の色彩、流通段階の色彩、流行色
12回	パーソナルカラーの仕組み	パーソナルカラーの仕組みとカラー診断
13回	ファッション色彩能力検定対策	検定試験範囲の総復習
14回	ファッションイメージと色彩	エレガント、モダン、クラシック他ファッションイメージマップ作成
15回	後期の復習、テスト	前期・後期の総復習テスト



科目名	パソコンワーク I	教員名	加藤 正人
授業時数・単位	45 時間 1.5 単位	対象クラス	FC 科 1 年
授業テーマ・概要	<p>ファッション産業におけるグラフィックの役割と有効性を理解し、  ファッション表現のツールとしてパーソナルコンピュータ及び、  グラフィックソフトを使う能力を身に着けると同時に、  各自のデザイン能力及びプレゼンテーション能力の習得、向上を目標とする。</p>		
到達目標	<p>デジタルファッション画、デジタルコラージュの製作を通して  グラフィックソフト(Adobe Photoshop、Adobe Illustrator)の基礎技法習得を目指す。</p>		
授業の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デモンストレーション: プロジェクターによる講師デモンストレーション、解説</li> <li>・演習: 練習用テンプレート課題を通して、一連の製作プロセスを把握する。</li> <li>・製作実習: 各自のデザインワーク、作品製作</li> <li>・講評</li> </ul>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提出課題: 着想／立案 (33%)、表現技術 (33%)、まとめ／完成度 (33%)</li> <li>・授業態度: +0～10% (加点)</li> <li>・出席率: +0～10% (加点)</li> </ul> <p>※成績評価基準は、校内ルール4項(2)に準拠する。</p>		
特記事項			

回数	授業テーマ	授業内容
1回	オリエンテーション／授業内容説明	授業の進め方、PC、OS、使用ソフトの紹介、参考作品の紹介
2回	Adobe Photoshopの基本操作	ペイントソフトの基礎知識。描画、加工、編集の基礎技法。
3回	コラージュの制作／演習	Photoshopによる画像の合成、加工、編集
4回		写真等の素材画像をコラージュする。
5回	コラージュの制作／実習	衣服のプリント用図案として制作する。
6回		各自が撮影した衣服写真と出来上がったコラージュを合成する。
7回	Adobe Illustratorの基本操作	ドローソフトの基礎知識
8回		描画、加工、編集の基礎技法
9回	デジタルファッション画の制作／演習	Photoshopによるファッションデザイン画の製作
10回		下絵のスキャニング～着色表現
11回	デジタルファッション画の制作／実習	陰影、立体感、素材感の表現
12回		画像素材、コラージュ手法の活用
13回	卒修展デザインボードの製作	デジタルファッション画、イメージビジュアルの製作
14回		Illustratorでのレイアウト、編集、まとめ
15回		1年間のまとめ

科目名	ファッション論	教員名	上間 常正
授業時数・単位	45 時間 1.5 単位	対象クラス	FC 科 1 年
授業テーマ・概要	<p>ファッションについて学び、考えるために必要な基礎的知識。</p> <p>人が服を着ること、身体を飾ることの意味を、伝統的服飾文化から現代ファッションに至るまでの流れを通して解説する。</p> <p>①服を着ることの意味とファッションの歴史</p> <p>②近代・現代ファッションの特色と今後の見通し</p> <p>③ファッションクリエイションの特色、クリエイションとビジネスの深い関係とはどのようなことなのか</p>		
到達目標	<p>①ファッションが好きというだけでは、クリエイターの仕事もビジネスもできない。プロとしての仕事のためには何が必要かを理解する。</p> <p>②人はなぜ服を着るのか、身体を飾るのか？ について深い理解を得る。</p> <p>③ファッションの歴史を知ること、ファッションの現状とこれからの可能性について、クリエイションとビジネスの両面から考える能力を高める。</p>		
授業の方法	<p>講義形式を基本とするが、スライドやビデオをなるべく使って理解の手助けとする。</p> <p>テーマによっては質問を投げかけて学生の意見参加を求め、かつ成績評価の参考とする。</p> <p>内容によっては感想文やレポートの提出を求める。</p>		
成績評価の方法	<p>①出席率と授業態度 40%</p> <p>②感想文・レポート 40%</p> <p>③質問への答えによる理解力の判定 20%</p> <p>※成績評価基準は、校内ルール4項(2)に準拠する。</p>		
特記事項			

回数	授業テーマ	授業内容
1回	ファッションの基礎知識	人はなぜ服を着るのか ファッションと流行
2回	ファッションの楽しさ	2018年秋冬コレクションのスライド解説
3回	ファッションの歴史 ①	人はいつから服を着たのか？ 服の基本形
4回	” ②	近代ファッションの成立と特色
5回	” ③	オートクチュールの成立とデザイナーの出現
6回	” ④	プレタポルテの出現とブランドビジネスの拡大
7回	ファッション業界の仕組み	川上から川下までの流れと各仕事の分担
8回	ファッションブランド論	ブランドとは何か ブランディングについて
9回	ファッションデザインとは？	デザインとはどんなことか アートとの関係
10回	ファッションビジネス論	ファッションビジネスの特色 マーケティングについて
11回	トレンドについて	トレンドとは何か トレンドの読み方
12回	ファッションクリエイションの方法	デザイン発想から服作り、ビジネスまでの実例紹介
13回	ファッション発信の現場	マーク・ジェイコブスのコレクション舞台裏のドキュメント映画と解説
14回	ファストファッションについて	その現状と意味
15回	全体のポイントの復習	覚えておくべきポイント 今後のファッションの可能性

科目名	ファッションビジネス論	教員名	玉村 雅美
授業時数・単位	45 時間 1.5 単位	対象クラス	FC 科 1 年
授業テーマ・概要	<p>ファッションクリエイター科としてファッション業界での服作りから販売までの位置づけを確認します。</p> <p>クリエイターとして、ファッションビジネスの4つの視点(トレンド、システム、ブランド、マーケティング)から、仕事をしていくうえで必要な基本的なビジネス知識、業界用語を幅広く習得します。</p> <p>一年を通じて、講義とマップ制作から業界知識を習得し、感性を磨いていきます。</p>		
到達目標	<p>◎ファッション業界でよく使われる基本的な専門用語を理解し、現場で活用できるようにする。</p> <p>◎ファッション業界の仕組みと現状を知り、職種の仕事内容の理解を深めること。</p> <p>◎クリエイターとしてファッションビジネスの4つの視点を意識しながら取り組めるようにする。</p> <p>◎マップ制作を通じて、講義内容の復習と思考力、編集力、美意識を高めていく。</p>		
授業の方法	<p>◎講義と実習(マップ制作)を交えて授業に飽きないように指導する。</p> <p>◎授業で取り上げた用語をファッションビジネス用語辞典で確認し、理解を深める。</p> <p>◎マップ制作を通じてファッションの楽しさ、学ぶ意欲を高めていく。</p>		
成績評価の方法	<p>◎課題の内容・出来栄え(含む、提出期限) 50%</p> <p>◎テスト 50%</p> <p>◎授業、課題に対する積極性・授業態度(マナー) 加点+0~10%</p> <p>◎出席率 加点+0~15%</p> <p>※成績評価基準は、校内ルール4項(2)に準拠する。</p>		
特記事項	<p>◎教材として「ファッションビジネス用語辞典」を使用します。</p> <p>◎ファッション雑誌や、店舗商品カタログなどのビジュアル資料を収集し活用します。</p>		

回数	授業テーマ	授業内容
1回	オリエンテーション	授業予定 FBの視点 制作方法
2回	ファッションの意義	ファッションと流行の特徴
3回	ファッション産業	ファッション業界の仕組みと現状
4回	↓	アパレル産業の形態と現状 制作
5回	↓	ファッション小売産業の形態
6回	まとめ	テスト/制作と用語まとめ
7回	ファッションとブランド	ブランドの意義と特徴
8回	顧客とファッション	顧客とファッション商品の細分化
9回	↓	ファッションティスト/ショップリサーチ
10回	↓	制作
11回	ファッションとマーケティング	市場、マーケティングの意味と活動要素
12回	↓	マーケティングの商品戦略
13回	↓	アパレル商品の分析/テストについて
14回	総括	後期まとめ/期末テスト
15回	↓	ファイルチェック、テスト返却、講評、他